

平成 16 年一番茶実収報告

京都府立茶業研究所

1. 摘採日

仕立て法	本年	前年	前 5 か年	平年
自然仕立て	5月2日	5月6日	5月6日	5月7日
弧状仕立て	5月3日	5月6日	5月5日	5月6日

注) 平年は、平成 6 年～平成15年までの10年間の値

2. 生葉収量(kg/10a)

仕立て法	本年		前年		前 5 か年平均	
	収量	指数	収量	指数	収量	指数
自然仕立て	558.4 ± 74.1	96	776.5 ± 42.0	134	578.8 ± 98.4	100
弧状仕立て	406.4 ± 55.0	126	364.8 ± 60.7	113	323.7 ± 60.4	100

3. 百芽重(g)

仕立て法	本年		前年		前 5 か年平均	
	重量	指数	重量	指数	重量	指数
自然仕立て	42.3 ± 5.7	85	61.5 ± 5.4	124	49.6 ± 5.3	100
弧状仕立て	56.9 ± 9.8	102	79.5 ± 15.1	143	55.8 ± 8.1	100

4. 新芽数(本/m²)

仕立て法	本年		前年		前 5 か年平均	
	新芽数	指数	新芽数	指数	新芽数	指数
自然仕立て	531.8 ± 74.7	114	601.8 ± 84.3	129	466.9 ± 62.1	100
弧状仕立て	955.0 ± 182.1	71	971.7 ± 170.0	73	1339.3 ± 309.7	100

注) 自然仕立ての数値は、20cm幅帯摘みの新芽数

5. 出開き度(%)

仕立て法	本年	前年	前 5 か年平均
自然仕立て	46.1	68.8	48.0
弧状仕立て	37.3	41.0	45.6

6.概要

(1)摘採期

本年の一番茶摘採日は、自然仕立て園が5月2日、弧状仕立て園が5月3日となり、前年及び前5か年平均と比べ、2～4日程度早かった。

(2)生葉収量

10a当たりの生葉収量は、自然仕立て園が558kg（前5か年並み）、弧状仕立て園が406kg（前5か年やや多い）であった。収量構成は、自然仕立て園で芽数型、弧状仕立て園で芽重型の傾向となった。

(3)病害虫の発生状況

一番茶新芽への病害虫の発生は少なく、実害はなかった

(4)周辺茶園の状況

各地とも気温が高温に推移したため、茶芽の生育は平年並み～やや早めの状況であり、順調に進んだ。その結果、摘採開始期は、平年並み～やや早くなった。

収量性については、全般的に前年比並み～やや少ない傾向となっている。

病害虫に関しては、コミカンアブラムシ、チャノナガサビダ二等の発生が早く、全体的に発生が多かった。